

制御－克服理論の新展開

——予測処理理論・フィクション作品・集団力動との関連——

制御－克服理論 (Control-Mastery Theory; CMT) は、米国の精神分析家ジョセフ・ワイス (1924-2004) によって提唱された心理療法の理論である。同理論は精神分析を起源とするが、どのような学派・技法・理論にも共通する、心理療法の根本原理を実証的に明らかにしようとした点にその特徴がある。

サンフランシスコ心理療法研究グループ (SFPRG) を中心として同理論は、理論的精緻化と臨床的応用の両面において、発展を続けている。近年はさらに、脳神経科学等において注目される「適応的無意識」や「予測誤差処理」といった概念とも整合的であることが示されている。

● *An Integrative Model of the Unconscious: Bridging Psychodynamics, CMT, and Predictive Processing*

(統合的無意識モデル——精神力動・CMT・予測処理理論に橋をかける)

by ジョージ・シルバーシャッツ博士 (SFPRG 会長)

● フィクション作品と集団力動の理解における CMT の潜在的有効性——アンデルセンの『裸の王様』を通じて

by 藤井康子 (先端総合学術研究科 4 回生)

※英語のスライドの日本語訳、専門用語のリストおよび解説を当日配布します。シルバーシャッツ博士への日本語でのご質問に関しては、主催者がお手伝いします。その他の語学面のサポートについては検討中です。

日時：2026年6月22日(月) 13:00 ~ 16:00

場所：立命館大学 衣笠キャンパス 平井嘉一郎記念図書館
1F カンファレンスルーム

※参加費は無料です。運営の都合により、参加予定の方は右のQRコード or 右下のURL よりご登録をお願いします。



主催：制御－克服理論研究会 (立命館大学先端総合学術研究科院生プロジェクト申請中)

共催：立命館大学人間科学研究所 (ニューロスケープ)

<https://forms.gle/yeiH7fHNuMnUkv67A>